

令和6年度 夏期インターンシップ生(長期) 受入れ予定一覧表

番号	受入れ部署		受入可能期間			留学生	受入れ対象	受入れ可能人数	実習内容	備考	指導担当者1		指導担当者2		指導担当者3		指導担当者4					
	局・部・グループ	チーム・班・担当	自	至	受入れ開始期間						役職	氏名	内線番号	役職	氏名	内線番号	役職	氏名	内線番号	役職	氏名	内線番号
1	技術推進本部	先端技術チーム	令和6年7月1日頃	令和6年9月27日頃	1週間以上	不可	院・学・高	2名	<ul style="list-style-type: none"> 実験計画・準備の補助 実験中の計測補助、実験後のデータ整理・解析、結果の検討 技術相談等への同席、資料作成補助 なお、以下に関連する実験等を予定している。 <ul style="list-style-type: none"> 建設機械の自動運転に向けたシステム開発と動作実験 インフラ管理施設(水門、ポンプ等)の状態把握手法の改善 	<ul style="list-style-type: none"> 受入れ可能期間(令和6年7月1日頃から同年9月27日頃まで)について、学会等の都合により受入れできない期間が発生する恐れがございます。受入れができない期間とご希望の実習期間が重なってしまいましたら、実習時期についてご相談させていただきますのでご了承ください。 担当者(指導員)について、2名を指導員として指名し期間半ばで交代する。(インターンシップ生が2名来た場合は期間半ばで入れ替え。) 	上席研究員	山口 崇	3561	上席研究員	橋本 毅	3568						
2	流域水環境研究グループ	流域生態チーム	令和6年7月頃	令和6年8月頃	1週間以上	不可	院・学・高	2名	河川環境に関して、実際に実習生に下記の調査を経験してもらう。 <ol style="list-style-type: none"> 環境DNAについて、採水から分析までを体験してもらう。 実河川の現場で植生等調査に同行してもらう。(環境DNA調査の採水含む) そのうえで、現在の河川環境をめぐる課題を踏まえて、課題解決に向けた土研の研究内容を理解していただき、意見交換を行い、土研の研究活動を疑似体験してもらう	受入時期は可能な限り統一していただきたい	特任研究員	村岡 敬子	4322	主任研究員	鈴木 宏幸	4342	研究員	服部 啓太	4328	研究員	橋 ちがや	4329
3	流域水環境研究グループ	水質チーム	令和6年7月中旬頃	令和6年9月中旬頃	1週間以上	不可	院・学・高	1名	環境水及び下水処理の水質に関する検討 以下のいずれかに関連した内容を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ダム貯水池・湖沼の水質モニタリング技術の検討 センサーやマルチスペクトルカメラ等の技術によるダム貯水池・湖沼の水質モニタリング手法に関する検討を実施する。 気候変動下におけるダム貯水池・湖沼の水質影響の検討 将来の気候変動下におけるダム貯水池・湖沼等の水質変化を予測・評価する手法等に関して検討を行う。 下水処理場の栄養塩管理運転の影響評価方法 下水処理場の栄養塩管理運転が放流先に与える影響の調査分析及び評価方法について検討を行う。 環境水及び下水処理に係る水質に関する調査分析 そのほか、水質チームの研究に係る広い意味での環境水や下水処理に係る水質の調査分析方法の検討を行う。 	受入れ可能期間は現時点の予定になり担当研究者の学会参加等の都合により受入れできない期間が発生する恐れがございます(特に8月上旬～中旬は学会参加のため対応が難しい場合があります)。また、実習期間及び実習内容について、応募者の専門分野や実習内容のご希望、業務の進捗状況などを考慮し個別に相談の上決定したいと思いますのでご了承ください。	研究員	水野健太	4338									
4	流域水環境研究グループ	自然共生研究センター	令和6年7月1日頃	令和6年9月30日頃	2週間以上	不可	院・学・高	3名	魚類、水生昆虫、付着藻類などの河川生物に関する調査、実験河川を用いた大規模操作実験、実験室での基本的な生物のソーティング、仮想空間構築や水理計算の基本的な作業、取得データの打ち込み・整理		主任研究員	森 照貴	0586-89-6036	主任研究員	林田 寿文	0586-89-6036	研究員	松澤 優樹	0586-89-6036			
5	道路技術研究グループ	舗装チーム	令和6年7月1日頃 及び 令和6年9月10日頃	令和6年8月9日頃 及び 令和6年9月27日頃	1週間以上	不可	院・学・高	1名	実習生が見学可能な活動 <ul style="list-style-type: none"> 自動運転荷重車を用いた実物大促進載荷試験 路面性状測定車両および機器を用いた調査 舗装に関する様々な室内試験 舗装の基礎的知識の習得に加えて、以下のいずれかに関連した内容を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> 舗装の損傷メカニズムに応じた長寿命化技術の検討 舗装走行実験場における試験や調査およびそのデータを活用した解析等により、舗装をより長持ちさせるための対策技術について検討する。 理論的手法に基づく舗装の構造設計方法の検討 現在、舗装の構造設計は経験的手法により行われることがほとんどであるが、新技術への対応が困難という課題が顕在化しつつある。様々な新技術に対応可能で経験によらない設計手法について検討する。 		主任研究員	田中 俊輔	4624									
6	道路技術研究グループ	トンネルチーム	令和6年8月5日頃	令和6年9月27日頃	最大1週間	可	院・学・高	1名	山岳トンネルの力学特性等の基礎知識を習得することを目的に、以下のいずれかに関連した内容を実施する。 <ol style="list-style-type: none"> 数値解析手法を用いた実習 簡易な二次元解析や三次元解析を実施することで、山岳トンネルの力学特性や地山挙動を把握するとともに、理論解との比較検討等を行う。 実験的手法を用いた実習 簡易な模型実験や実験結果の整理・分析等を行うことで、山岳トンネルの破壊メカニズム等の検討を行う。 データ分析を用いた実習 実験データや施工実績データの分析・統計処理等を行うことで、山岳トンネルの地山評価手法の仕組みを把握するとともに、変形特性等との関連性に関する検討を行う。 	留学生については日本語での円滑な意思疎通が可能であること。	研究員	菊池 浩貴	4637									
7	河道保全研究グループ	水工チーム(河道班)	令和6年8月28日頃	令和6年9月30日頃	1週間以上	不可	院	1名	橋梁の洗掘について、次のいずれかの作業を実習内容とする。 <ul style="list-style-type: none"> 橋脚周辺の根入れ深さに関する現地調査、データ整理 橋脚周辺河道の河床変動計算 対策工に関する分析 		主任研究員	小関 博司	4443									
8	河道保全研究グループ	水工チーム(ダム班)	令和6年8月19日頃	令和6年9月13日頃	1週間以上	可	院・学	1名	ダムの計画、設計、水理模型実験について、次の作業の内から実習内容とする。 <ul style="list-style-type: none"> ダム水理模型実験、実験データ分析等 ダム周辺の流れに関する数値シミュレーション 可能であれば現地調査 	<ul style="list-style-type: none"> 留学生については日本語で円滑なコミュニケーションが可能であること 現地調査について、公共交通機関を利用する場合は、公共交通機関の利用料金を支給できないため、実習生若しくは大学負担可能であれば実施。土木研究所の公用車に同乗する分については、負担なし。 	研究員	高田 翔也	4446									
9	河道保全研究グループ	河道監視・水文チーム	令和6年7月1日頃	令和6年9月30日頃	1週間程度	可	院・学・高	1名	画像解析を用いた表面流速計測について。		主任研究員	萬失 啓啓	4432									
10	水災害研究グループ		令和6年7月22日頃	令和6年9月30日頃	1週間以上	可	院・学	2名	洪水に関するリスクマネジメントを支援するための観測・分析・評価の手法・技術を、具体事例を通じて習得する。 想定される作業(実習)内容 <ul style="list-style-type: none"> 降雨流出氾濫モデル(RR1モデル)の習得とモデルを活用したリスクアセスメント(気候変動予測、ハザードマップ作成 など) ※なお、指導の一部は英語で行われる可能性があります	実習生が確定次第、実習内容と実習時期に応じて確定する予定。	専門研究員	筒井 浩行	4817	専門研究員	Shrestha Badri Bhakta	4831						

令和6年度 夏期インターンシップ生（長期）受入れ予定一覧表

番号	受入れ部署		受入可能期間		留学生 受入れ対象	受入れ 可能人数	実習内容	備 考	指導担当者1			指導担当者2			指導担当者3			指導担当者4				
	局・部・グループ	チーム・班・担当	自	至					役職	氏名	内線番号	役職	氏名	内線番号	役職	氏名	内線番号	役職	氏名	内線番号		
11	橋梁構造研究グループ		令和6年8月1日頃	令和6年9月27日頃	1週間以上	不可	院・学・高	3名	<ul style="list-style-type: none"> ・コンクリート 橋における診断支援AIシステムの紹介・現場実習 ・コンクリート 橋の非破壊点検技術の紹介・体験 ・道路橋の技術基準への反映に向けた実験のデータ整理補助 ・疲労亀裂や腐食減肉が生じた鋼部材の非破壊調査・計測技術の実施補助 ・道路橋の地震発生後の点検に関する研究の紹介 ・洗掘を考慮した地震応答解析実習 ・音波探査技術を用いた水中の基礎形状把握試験補助 	<p>・ 具体的な実習内容や実習計画については、実習生の希望、学習状況、業務の進捗状況等を踏まえたうえで決定します。</p> <p>・ 受け入れ時期、期間の詳細は御相談ください。 (受け入れ時期は8/26~8/30を除く)</p>	主任研究員	瀧本 耕大	4720									
12	材料資源研究グループ	先端材料・高度化担当	令和6年7月1日頃	令和6年9月27日頃	1週間以上	不可	院・学・高	2名	<p>土木分野で用いられる代表的な材料（FRP、塗料、補修材料、アスファルト、セメント系材料など）に関する社会的課題を解決するための性能評価手法を具体事例を通じて体験する。</p> <p>【テーマ】</p> <p>（1）カーボンニュートラルに資するアスファルトのリサイクルや代替材料検討</p> <p>（2）環境負荷低減を目指した水性・無機系塗料の評価</p> <p>【実習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 暴露供試体等を用いた実験とデータ解析を通じた性能評価 ・ ライフサイクルコスト、ライフサイクルCO₂等の算出 ・ 可能であれば現地調査にも同行し劣化診断や実環境での暴露状況を観察する 	<p>化学系学科あるいは物質系学科（分析化学、物理化学、無機化学、有機化学、高分子化学、材料科学、物質工学、化学工学、環境化学、農芸化学など）もしくは腐食防食を取り扱う土木系学科の学生を対象とします。</p> <p>担当者の都合により、作業内容により受け入れできない期間があります。</p>	上席研究員	富山 慎仁	4121	上席研究員(特命事項担当)	百武 壮	4141	副格主任研究員	佐々木 巖	4125	研究員	島袋 智尋	4129
13	材料資源研究グループ	資源循環担当	令和6年8月19日頃	令和6年8月30日頃	1週間以上	不可	院・学・高	2名	<p>土木研究所では、下水汚泥の脱水効率の向上に向けて、他分野バイオマスを活用した手法を開発している。</p> <p>本実習では、種々のバイオマスと下水汚泥を様々な割合で混合し、ヌッチェ試験等により、混合脱水汚泥の透水係数の測定などを行う。また、得られた結果を整理し、バイオマス毎の特性を把握する。</p>		主任研究員	宮本 豊尚	4134	研究員	高橋 啓太	4139						

※ 研究企画課 夏期インターンシップ生（長期）担当（TEL：029-879-6751、mail：saiyou-kikaku@pwri.go.jp）
 ※ 院：大学院、学：大学、高校：高等専門学校（研究所が同等と認める機関を含む）